

## 社会的カテゴリーの本質に関する しろうと理論 (1)

唐沢 穰 (神戸大学文学部)  
浅井暢子 (神戸大学大学院 文化科学研究科)

日本社会心理学会第45回大会 北星学園大学 2004年7月18日

## ステレオタイプ化に用いられる根拠

- 何らかの生理的・生物学的根拠を持つように見える社会的カテゴリーは、ステレオタイプの対象になりやすい
  - 人種
  - 性別
  - 年齢層 ……

その心理的根拠は？

## カテゴリーの性質に関するしろうと理論

- **自然カテゴリー** (natural-kinds)  
生物学的根拠を持つと信じられている  
「植物」「動物」「哺乳類」「鳥類」 など  
**自然カテゴリーの成員は「成員であるために必要な本質(essence)を持つ」と知覚されやすい**  
= 「心理的本質主義」  
(psychological essentialism: Keil, 1989; Medin, 1989 )
- **人工物カテゴリー** (human artifacts)  
主に機能を根拠に成り立つ分類  
「家具」「食器」; 「机」「イス」 など

## 社会的カテゴリーの場合

- 多くは **人工物カテゴリー** と同様
  - 基盤: 機能
  - 本質: 必要ではない
  - 境界: 恣意的に変化可能例: 性別、人種、親族、 etc  
ところが、しろうと理論においては、…  
**自然カテゴリーと同様、本質が存在するかのように知覚され、信じられることが多い**  
(Rothbart & Taylor, 1992)

## 比喩

- 「女性は**生まれつき**、育児に向くようにできている」
- 「血は水よりも濃い」
- 「旧財閥系企業に特有の古い **体質**」
- 「国土交通省に衣を替えても、旧建設省以来の **DNA** は、なくなっていないようだ」

## 社会的カテゴリーをめぐる本質主義の構造: 実証的研究

- Haslam, Rothschild, & Ernst (2000)
  - 本質主義尺度(9項目)を作成し、20の社会的カテゴリーを対象に評定を得た
  - 因子分析により、本質主義を構成する2つの要素を抽出
    - **自然性(naturalness)**: 自然さ、不変性、必要性 etc.
    - **実体性(entitativity)**: 一般化可能性、類似性、基盤の共通性 etc.

## 問題点

- 他種類のカテゴリーとの比較が必要
  - 自然カテゴリー、人工物カテゴリー、社会的カテゴリーに共通した本質主義と、その構成要素は存在するか？
  - 人種、性別などの「自然性」は自然カテゴリーと比較してどの程度か？ 機能的集団の「人工性」は人工物カテゴリーと比較してどの程度か？

## 方法

- 参加者 大学生198(男性118、女性80)名
- ターゲット
  - 自然カテゴリー12個(犬、バラ、酸素 等)
  - 人工物カテゴリー 14個(携帯電話、冷蔵庫、皿、ボールペン、パン 等)
  - 社会的カテゴリー 60個(女性、男性、黒人、白人、黄色人種、日本人、アメリカ人、心臓病患者、AIDS患者、うつ病患者、精神分裂病患者、摂食障害、美男、美女、経済学者、警官、外向的な人 等)
- 10~11個のターゲットから成る40ヴァージョンの質問紙を作成し評定を求めた

## 本質主義尺度 (7件法)

- **自然性**(*naturalness*): 自然なカテゴリーであるか、人工的なカテゴリーであるか
- **必然性**(*necessity*): カテゴリーの成員であるために欠かせないもの(本質)が存在するか
- **不変性**(*immutability*): カテゴリー成員でなくなるのが可能か
- **均質性**(*uniformity*): カテゴリー成員間の類似性
- **類推可能性**(*informativeness*): カテゴリー名から成員の特質が推測できるか
- **排他性**(*exclusivity*): 当該カテゴリー成員であると同時に他のカテゴリー成員になれるか

## 結果

- 各カテゴリー(23~27名による評定の平均値)を単位として分析
- 因子分析:
  - 自然・人工・社会のカテゴリーに共通した次元を抽出

### 因子分析の結果(ヴァリマックス回転後の負荷量)

項目	因子1	因子2
類推可能性	<b>.99</b>	-.14
均質性	<b>.92</b>	.05
排他性	<b>.86</b>	.33
不変性	.69	<b>.72</b>
必然性	<b>.50</b>	.11
自然性	-.03	<b>.58</b>
固有値	3.63	1.22
分散説明率	60.4%	20.0%

### 因子分析の結果(ヴァリマックス回転後の負荷量)

項目	実体性	因子2
類推可能性	<b>.99</b>	-.14
均質性	<b>.92</b>	.05
排他性	<b>.86</b>	.33
不変性	.69	<b>.72</b>
必然性	<b>.50</b>	.11
自然性	-.03	<b>.58</b>
固有値	3.63	1.22
分散説明率	60.4%	20.0%

因子分析の結果(ヴァリマックス回転後の負荷量)

項目	実体性	自然性
類推可能性	.99	-.14
均質性	.92	.05
排他性	.86	.33
不変性	.69	.72
必然性	.50	.11
自然性	-.03	.58
固有値	3.63	1.22
分散説明率	60.4%	20.0%

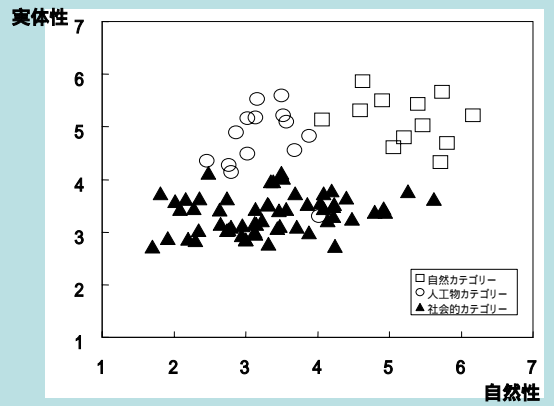


図1. 全カテゴリーのプロット

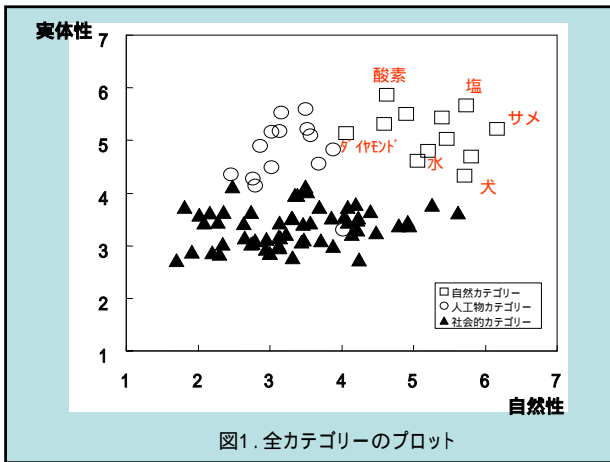


図1. 全カテゴリーのプロット

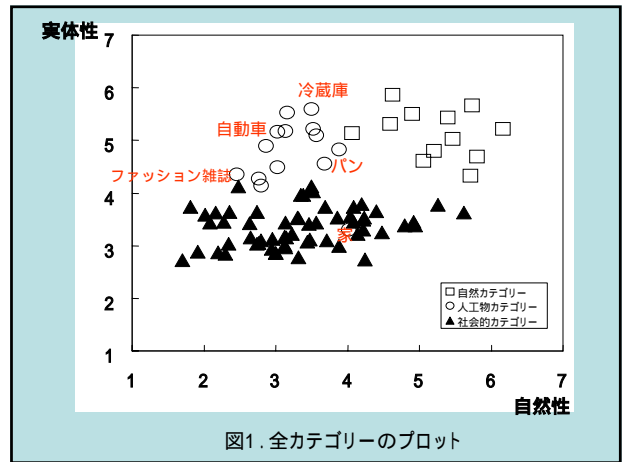


図1. 全カテゴリーのプロット

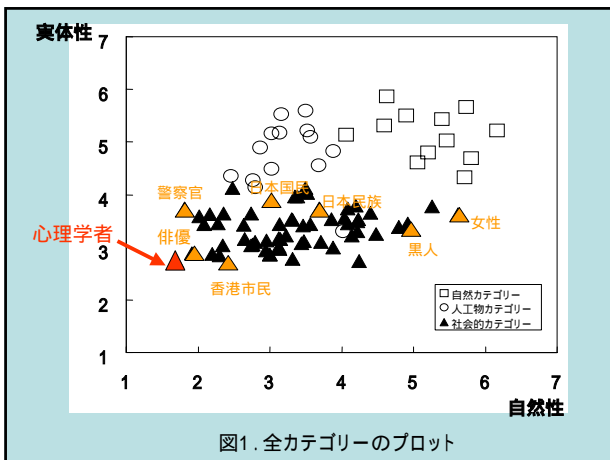


図1. 全カテゴリーのプロット

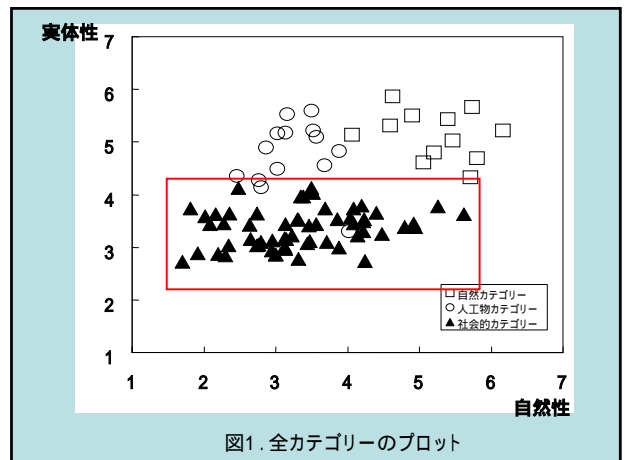
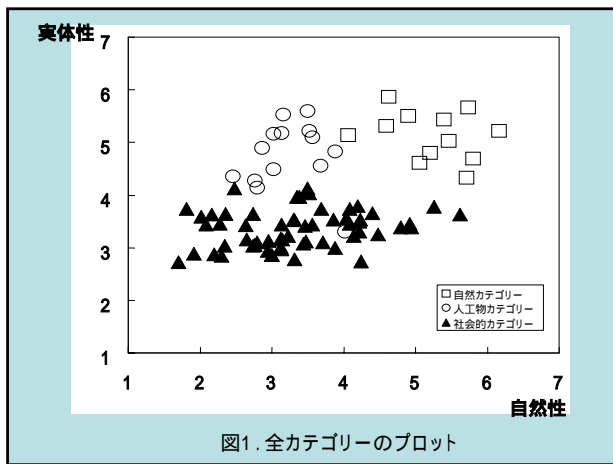
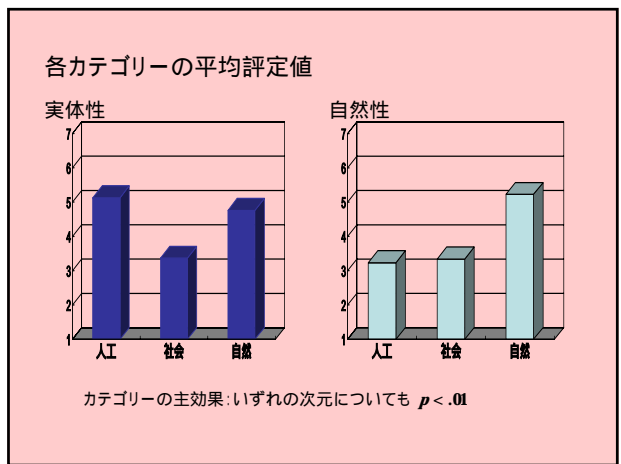
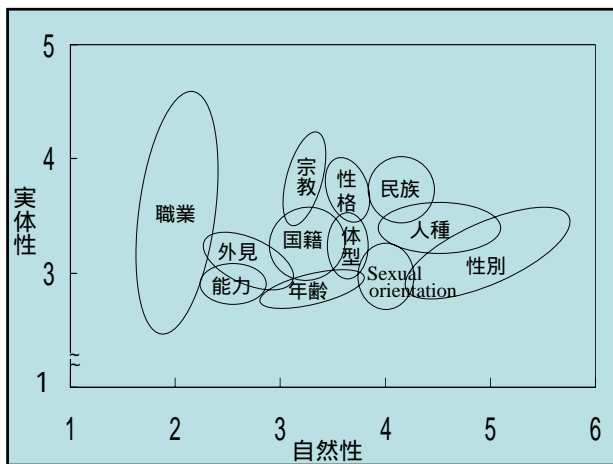


図1. 全カテゴリーのプロット



**結果のまとめと考察**

- **実体性と自然性**: 自然カテゴリー、社会的カテゴリー、人工物カテゴリーに共通の構成要素
  - Haslam et al., (2000) と同様の結果
- **自然性に関する布置は、かなり論理的**
  - 自然カテゴリー > 社会、人工物カテゴリー
  - ただし社会的カテゴリーに知覚された自然性は変動性が高い

- 社会的カテゴリーの中でも **性別・人種・民族**などは自然カテゴリーと同程度の自然性知覚
  - 生物学的根拠があるように見えるものは natural-kinds と見なす、しろうと理論を示す (cf. Atran, 1999)

**今後の課題**

- 因子分析結果は対象として取り上げたカテゴリーの数や種類に依存する
  - さらに広範なカテゴリーについて しろうと理論を記述することが必要
- 心理的本質主義の発動・本質化を促進する状況要因は？
  - 特定の集団・カテゴリーに対してステレオタイプ的知覚・判断が形成される状況を解明するための手がかりに

付録

実体性

自然性

自由主義者  
共和党支持者

同性愛者

内向的性格

下層階級

外向的性格

中産階級

外見魅力的

不細工

エイズ患者

異性愛者

女性

黒人

ガン患者

男性

白人

